



赤松

樹皮が赤っぽいことから赤松と呼ばれています。黒松と比べて葉はやや細く、やわらかいことが特徴です。



黒松

樹皮が黒っぽいことから黒松と呼ばれています。赤松と比べて葉は硬く、枝が太いことが特徴です。

景観重要樹木のビュースポット



A ハケ岳方面の眺望



B 茅ヶ岳方面の眺望



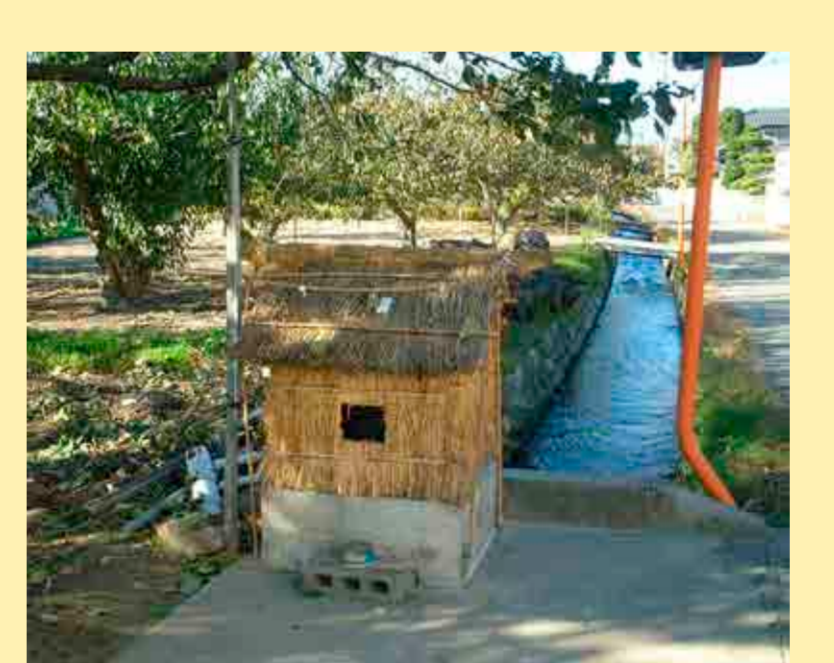
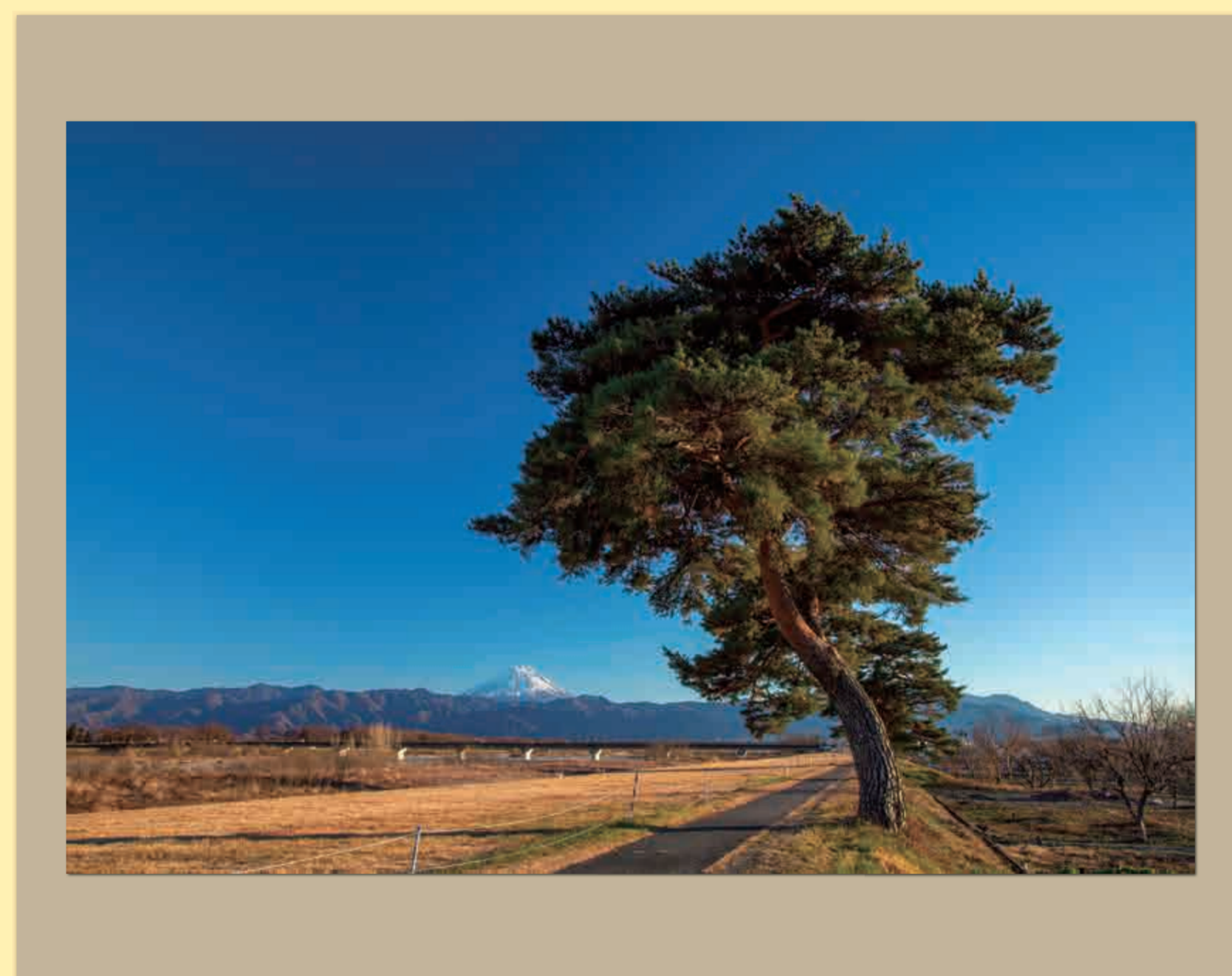
C 富士山方面の眺望



D 甲斐駒ヶ岳方面の眺望



E 釜無川からの眺望



景観重要樹木に指定された当時31本あった松は、令和4年4月現在、14本まで数を減らしてしまいました。その多くが「松くい虫(正式名: マツノザイセンチュウ)」の被害によるものです。消毒などの対策や、地域の方々の見守りの甲斐もあり、令和2年以降は被害が抑えられています。被害の早期発見のため、異常を発見した方は市役所までご連絡をお願いします。歴史ある景観を地域一体となって守っていきましょう。(都市計画課 055-282-6394)



松くい虫による被害



マツノマダラガミキリ

景観重要樹木に指定された松並木

上高砂堤防に並ぶ14本(赤松13本、黒松1本)の松は、上高砂区より推薦を受け、平成26年3月、県内初の「景観重要樹木」に指定されました。河川敷にある樹木としては、国内初の指定となります。(指定時:赤松25本、黒松6本 計31本)

景観重要樹木とは、地域の良好な景観づくりにとって重要であり、景観のシンボルとして親しまれている樹木のこです。

100年あまりの時を重ね、静かにたたずむこの松並木は、釜無川の川面のきらめきや、ハケ岳・南アルプス・富士山などの山岳眺望と相まって、四季折々、美しいすがたを見せ、人々の憩いの場となっています。

地域の水害防備の歴史を伝える貴重な樹木でもあるこの松並木を、今後も地域の方々との協働により、保護、育成していきたいと考えています。

※景観重要樹木は、令和4年3月31日現在、全国で279件指定されています。(国交省HPより)

水害防備としての松並木の歴史

上高砂地区は、暴れ川と呼ばれた御勅使川と前御勅使川、釜無川に挟まれ、古くから度々水害に悩まされてきました。人々は何世代にも渡って、堤防を造り、水害防備の樹木を植え、神仏へ水防の祈りを捧げてきました。

上高砂の堤防は、「霞堤(かすみでい)」という不連続な堤防で、堤防の上には「根固め」として樹木が植えられてきました。現在の松並木は、明治29~43年の堤防改修の際に植樹されたようです。

100年の時を経る中で残った松並木は、私たちの暮らしを見守り続けながら、先人たちの水害から集落を守ってきた歴史や防災への意識を今に伝えてくれています。

Mなび ご活用ください

南アルプス市

地元の方々、こどもたちの声で南アルプス市のいろんな場所をガイドします。QRコードを携帯電話などのバーコードリーダーで読み取ります。表示されたURLからMなびの地点情報ページへアクセスして下さい。